

カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れた 学校行事の設計に関する研修の開発

横浜国立大学教職大学院 教育学研究科高度教職実践専攻

古城 秀典

1. はじめに

新中学校学習指導要領にはカリキュラム・マネジメントが新設され、注目を集めている。特別活動の中に位置づけられている学校行事も、カリキュラム・マネジメントの範疇に含まれている。働き方改革の観点からも文部科学省は通知の中で、学校行事の精選や学校行事と教科等との関連性の見直し等を進めることを明記し、カリキュラム・マネジメントの重要性は高まっている。

一方で、学校行事は多くの場合、それぞれのものが既に定型化されているという課題がある。定型化されることにより、学校行事において、教師がねらいを持って生徒に活動させるという意識が弱くなり、学校行事そのものの意義や教育目的から、その内容を練り直すということも少ない状況がある。

2. 研究の目的

本研究では、カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れた学校行事の設計に関する研修の開発を行うこととした。開発した研修により、教師が教育目的を意識して学校行事を設計・実施できるようになることを目的とする。

3. 課題解決の方法

研究題材とした学校行事は、学校祭文化部門2日目とした。この日は部活動単位で活動し、運動部は模擬店(食品販売)を行い、文化部はそれぞれのブースで日頃の部活動の発表を行っている。

この学校行事の設計に関する開発したワークショップ研修は2つあり、全教師を対象に実施した。この2回のワークショップ研修は、対象とした学校行事を間に挟む形で実施した。実践概要は表1を参照されたい。また、開発した研修には思考ツールを用いた活動を取り入れ、個人やグループでも考えやすくなるよう工夫した。

実施順	名称	実施時期	内容の概略・ねらい
1	第1回 ワークショップ	8月下旬 実施	教師が既に決まっている行事の目的(職員会議に通っているもの)の達成に向け、具体的にどのような手立て(指導)をとり実行するかを考えることをねらいとする。 成果物を職員室内に掲示することで、本ワークショップの内容が、実際の活動の際にも適宜確認できるようにした。
2	学校行事の実施	9月中旬	
3	第2回 ワークショップ	10月下旬 実施	実際に行事を終え、第1回ワークショップで決めた事柄を振り返り、その実態から行事の目的を練り直すことをねらいとする。

表1 開発したワークショップ研修の概要

4. 結果と考察

カークパトリックの効果測定モデルを用いた研修の評価は、概ね良好な結果となった。評価対象者1人1人に着目した縦断的な分析では、教師の学校行事に対する目的意識の変容に関して、4つの群(上がった群、高めで変化しなかった群、下がった群、低めで変化しなかった群)に分かれた。これら4群に共通する研修の効果として、学校行事の目的意識そのものを学校の全職員を巻き込んで話す機会が与えられたこと自体が、学校行事に対する意義や目的を意識することに対し、大きな要素であることがわかった。一方で課題点は、研修の形態がグループで発表して終了であったため、研修で考えたことを、誰がどうまとめて実際に進めていくのかといった現実問題が曖昧なまま終わった点である。このような疑問を感じた教師は、学校行事の目的意識が下がった群や低めで変化しなかった群に顕著であり、開発した2つの研修の進め方やパッケージングに課題が残った。

5. 参考文献・参考資料

中原淳(2014)(ダイヤモンド社)
研修開発入門—会社で「教える」競争優位を「つくる」

黒上晴夫・小島亜華里・泰山裕(2012)
シンキングツール ～考えることを教えたい～

小清水貴子 藤木卓 室田真男(2016)
ICT活用推進リーダーを対象にした集合研修の改善と評価